

令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告書

令和2年3月30日

1 組織

- (1) 都立山崎高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
教務主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、進路指導主幹教諭（進路部主任兼務）、生活指導主幹教諭（生活指導主任兼務）、3学年主幹教諭、2学年主幹教諭、1学年主幹教諭 計6名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、教務主幹教諭（教務主任兼務）、生活指導主幹教諭（生徒部主任兼務）、進路指導主幹教諭（進路部主任兼務）、総務部主任教諭（総務部主任兼務）、3学年主幹教諭、2学年主幹教諭、1学年主幹教諭 計9名
- (4) 協議委員の構成
青少年健全育成委員会会長、山崎高等学校同窓会副会長、山崎高等学校PTA副会長、近隣中学校校長、近隣小学校校長、町田消防署出張所長、学識経験者（大学職員）、町田市教育委員会指導主事 計8名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（全3回）の開催日時・出席者・内容・その他
 - 第1回 令和元年6月18日（火）内部委員9名、協議委員7名
 - ・協議委員委嘱、紹介、内部委員の紹介、学校経営計画、本校の現状と課題の説明（経営企画室、各分掌、各学年）、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和元年11月21日（木）内部委員7名、協議委員5名
 - ・これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の実施目的・今年度の学校評価方針、学校評価の内容検討、協議、意見交換、事務連絡
 - 第3回 令和2年2月10日（月）内部委員9名、協議委員7名
 - ・これまでの教育活動に関する報告、学校評価アンケートの分析報告及び学校運営に関する意見、次年度に向けた取り組み課題の協議等、事務連絡
- (2) 防災教育推進委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和元年6月18日（火）内部委員2名、協議委員7名
 - ・防災教育の取り組みについて、避難訓練について、意見交換
 - 第2回 令和元年11月21日（木）内部委員2名、協議委員5名
 - ・避難訓練について、宿泊防災訓練実施報告と来年度の救命救急講習の受け入れ
合同防災キャンプ参加報告について

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・回答者数

12月	全校生徒	628人	回答者634人	(回収率 99.1%)
12月	保護者全員	444人	回答者人634	(回収率 70.0%)
12月	地域住民	240人	回答者 26人	(回収率 10.8%)
12月	教職員	46人	回答者 46人	(回収率 100%)
- (3) 主な評価項目
学校全体、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、開かれた学校づくり等
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
 - ① 学習内容について

ア 学習時間

経営計画において、生徒の学校以外で学習する時間の目標を「1日60分以上学習する生徒50%以上」としている。3学年とも、目標は達成されなかった。また、学校以外での学習時間0分という生徒が調査期間以外では全体で43%（1年生36%、2年生46%、3年生49%）であった。アンケート実施時期が3年生の多くの生徒が進路を決定した11月であり学習しなくなる傾向にあったことも数字に影響があったと考えられる。また各学年で日常的に補習や個別指導が放課後に行われており、授業時間外に校内で学習する生徒も一定数存在する。

イ 読書活動の推進

経営計画において、月1冊以上本を読む生徒の目標を「生徒80%以上」としている。月に1冊以上の本を読む生徒は1年生39%、2年生35%、3年生17%で、全体では30%であった。1冊も読まない生徒は1年生58%、2年生63%、3年生59%であった。（昨年度1年生65%、2年生66%、3年生59%）また1か月に4冊以上読む生徒は1年生5%、2年生5%、3年生は4%であった。（昨年度1年生5%、2年生6%、3年生6%）

読書量は学力に大きく影響するため、授業等を通じ様々な機会をとらえて文章を読む習慣をつけていきたい。

ウ 授業改善

「授業満足度75%以上」の数値目標に対し1年生51%、2年生67%、3年生65%が「わかりやすい」と回答している。「授業を工夫している」と回答した教職員は85%。「授業が工夫されていると感じている」生徒は1年生60%、2年生78%、3年生69%、保護者75%であった。「基礎学力がついた」と回答した生徒は数値目標75%に対し1年59%、2年70%、3年67%、保護者61%であった。生徒と保護者間に差がみられた。

② 生活指導について

「全教職員が集団生活におけるルールやマナー、規律正しい生活習慣や規範意識などを積極的に指導する」ことは重点目標の一つであり、数値目標を95%以上に設定している。結果は「指導している」とした教職員は82%。「先生は十分指導している」とした生徒は1年81%、2年89%、3年83%でいずれも数値目標には届かなかった。規則や生活指導については生徒の約84%、保護者の88%が肯定的に受け止めている。いじめ防止に取り組んでいると回答した生徒は数値目標80%に対し1年54%、2年67%、3年64%で保護者は70%であった。自転車マナー指導については、自転車のマナーを守っていると回答した生徒は1年85%、2年90%、3年83%であった。

数値だけを見ると良好であるが、近隣住民への記述式のアンケートでは自転車のマナーの改善を求める意見があるほか、苦情が寄せられたり、しばしば自転車の事故があったりするなど、生徒の意識と現状が乖離している部分がある。セーフティ教室等を通じて、交通安全の指導を強化していきたい。

③ 進路指導について

授業やガイダンス、補習、山崎受験道場等が進路実現に役立っていると回答した生徒は数値目標85%に対し1年58%、2年71%、3年68%であった。必要な進路情報を収集し、生徒に適宜伝えていると回答した教職員は93%、生徒の進路意識を啓発する指導をしているとしたのは100%であった。関連項目を生徒、保護者でみると、進路情報の提供やアドバイス十分とした生徒は数値目標86%に対し1年87%、2年83%、3年83%、保護者74%と生徒に関しては目標値まであと一歩であった。進路指導は1年から計画的に行われていると解答した生徒は数値目標85%に対し1年86%、2年84%、3年70%であった。

④ その他

学校生活は楽しく充実していると感じている生徒は1年71%、2年70%、3年78%、

山高生としての誇りを持っていると回答した生徒は、1年60%、2年61%、3年61%であった。山高に期待するものとして学習をあげている生徒は1年57人、2年45人、3年42人であった。一番多かったのは、学校行事をあげた生徒で1年84人、2年75人、3年93人であった。(複数回答可能)

⑤ 記述内容

生徒

より良い学校生活を送るために学校のルールや授業に於ける要望が多くあった。また山高の良き伝統を評価し体育祭などの学校行事等で達成感を感じている生徒がおり、挨拶・部活動を含め良き伝統を継承していこうとする姿が読みとれた。

保護者

体育祭など学校行事を評価する声が多く、充実した生活が送れていることへの感謝の声が多かった。進路指導に関しては、1, 2年生の保護者からは、受験に向けた講習・補習など対策を積極的に行ってほしいという声がある一方で、日頃の生活指導を含めた教育活動に対して感謝のお言葉も多くあった。

地域の方

アンケートの結果から地域の方が大変暖かな目で山高を見守って下さっていることを改めて感じたが、高齢化の進行とともに地域と学校とが近くで「共生」していく配慮を求める声が多くあり、より一層の交流を図るような指導への期待が寄せられていた。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

地域代表の方、有識者、同窓会、学校関係者、PTAとそれぞれの立場からの意見をいただき、課題改善の手立てとすることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・家庭学習習慣、読書習慣が十分に確立されていないが、一方で、長時間スマートフォンを利用している現状がある。スマートフォンの適切な利用を含めた生活習慣を確立し、学習や読書もバランスよく取り組めるよう指導していくのが急務である。
- ・募集対策は厳しい状態にある。現状を打開するための方策を立てていく必要がある。
- ・奨学金を借りる生徒が多い中、十分しくみを理解しないまま借りる場合がある。生徒・保護者双方にしっかり理解をしてもらう必要がある。
- ・災害時の地域貢献のあり方等、具体的なプランの構築が急務である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・積極的な教育活動情報の発信と地域に開かれた学校

(2) 学習指導

- ・アクティブ・ラーニングの推進と主体的・対話的で深い学び
- ・授業重視の教育活動
- ・補習、講習を充実させ、基礎学力の定着を図る。

(3) 特別活動

- ・学校行事の達成感や部活動の充実感が生徒の自信となるような指導
- ・地域貢献活動、ボランティア等、地域行事への積極的な参加と地域に関わる機会の充実

(4) 生活指導

- ・学校行事やHR等あらゆる機会をとらえた規範意識を高める指導

- ・周辺地域との連携と自転車乗車マナーや公共マナーの徹底
- ・スマートフォンの適切な使用の徹底

(5) 進路指導

- ・3年間を通じた計画的なキャリア教育
- ・教科「人間と社会」の体験活動（インターンシップ）の実施で培う社会人基礎力
- ・保護者への十分な進路情報の提供と発信
- ・進路情報を積極的に得るための教員向けガイダンスの継続

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラーと連携した心のケアの充実
- ・様々な角度からのセーフティ教室の効果的な実施
- ・校内美化と学習環境の向上

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

実績：両会議とも協議委員の参加なし

7 その他

- ・災害等における連携を含めて、本校と地域の方との協働に関する具体策についての協議を行う。
- ・ホームページや校門掲示板等により今後もより一層の情報発信に努める。